

平成22年度 第2回 豊田市行政経営懇話会 会議録

【日時】 平成22年9月16日(木)午後2時～4時10分

【場所】 豊田市役所南52会議室(南庁舎5階)

【出席者】(委員) 足立 潔重 (連合愛知豊田地域協議会副代表)
今井 康夫 (豊田商工会議所副会頭) 副会長
梅村 章子 (豊田市ファミリーサービスクラブ会長)
近藤 裕己 (市民公募委員)
榊原 大助 (豊田市PTA連絡協議会副会長)
澤田 恵美子 (豊田市消費者グループ連絡会会長)
鈴木 武 (豊田市国際交流協会日本語サロン)
鈴木 義金 (あいち豊田農業協同組合常務理事)
千葉 晃嗣 (豊田市ボランティア連絡協議会書記)
中根 芳郎 (豊田森林組合代表理事組合長)
早川 敏秋 (市民公募委員)
堀 晨雄 (豊田市区長会副会長(兼)書記)
山崎 丈夫 (愛知学泉大学コミュニティ政策学部教授)
会長
(計13人)

【欠席者】(委員) 柴田 征充 (豊田青年会議所理事長)
西原 香保里 (愛知みずほ大学人間科学部教授)
村林 聖子 (愛知学泉大学コミュニティ政策学部准教授)

【事務局】 太田 稔彦 (経営政策本部長)
宮川 龍也 (経営政策本部専門監)
脇迫 博文 (経営政策本部副主幹)
曾我 史人 (経営政策本部係長)
松本 美恵 (経営政策本部主査)
寺澤 好之 (総合企画部企画課長)
水野 智弘 (総合企画部企画課副主幹)
加藤 達志 (総合企画部企画課係長)
林 剛士 (総合企画部企画課主査)

【次第】 1 開会
2 本部長あいさつ
3 議事 ・ 施策評価について【協議】

(文責は事務局。訂正することがあります。)

【議 事】施策評価について

事務局

- ・ 議事内容につき、資料に基づいて説明

会長

- ・ この施策評価は豊田市役所として今年初めての試みということですが、委員の皆様からご質問、ご意見はありますか。

委員

- ・ いろいろな自治体で外部評価を意見として取り入れています。今回はこの懇話会でそういった位置づけの評価をすることになるのでしょうか。

事務局

- ・ 今回は事業評価自体をしていただくのではなく、企画課が判定した個別の評価結果に対して、委員の皆様の感覚で率直なご意見がいただければと思っています。

委員

- ・ 事業の評価についてはどこの自治体もやっていますし、豊田市のものは比較的わかりやすいと思います。ただ、専門的なことなので、その分野の人にはよくわかる資料になっていることが多く、この評価に市民意識調査を取り入れていると言われましたが、どのように点数化されているのかがわかりません。

委員

- ・ 同じ意見になりますが、市民意識調査自体が、対象市民をどのように選んで、どういった内容で評価したのか、それが見えてきませんので教えていただきたいと思っています。

事務局

- ・ 市民意識調査は、豊田市内の20歳以上の無作為抽出で、6400人に送付し、約4200人に回答してもらっています。回答率は66%になります。ただ、対象者にとって、生活上関係ない分野等の質問もありますので、この結果だけを評価とするわけにはいかないのもう一度、一般的な立場から見直しをしているということです。

委員

- ・ 施策評価の方法についての異論は特にありませんが、資料の3ページの前期実践計画事業の概要費推移をみると、23年度、さらに24年度と普通建設事業費が跳ね上がって増えています。この原因は何でしょうか。

事務局

- ・ 平成20年度からの第7次総合計画を策定したときは、景気動向の良かったときなので、歳入が1600億円程度を見込んでおり、そのうち440億円程度を普通建設事業費として見込んでいました。しかし、この財政状況の中、440億円そのままの計画通りでは実施していけなくなっていますので、担当部署が事業の見直しをかけて、やっと380億円程度になりましたが、まだまだ足りない状況です。

委員

- ・ 普通建設事業費を200億円に削減するのが、今回の目的ですか。

事務局

・ただ単に金額を削減するだけでなく、豊田市として重要な施策はやっていかなければいけないので、そういったメリハリをつけることが目的です。

委員

・それでも317億円を200億円にするには相当思い切った削減をしないとイケないし、無理なのではないでしょうか。

事務局

・いろいろな手法を試みっていますが、豊田市全体で今、何が必要なのか、考え直す必要があると思っています。

委員

・実際200億に近づいているのですか。

事務局

・新たな新規事業等も出てきているので、なかなか200億円は難しい状況です。

委員

・この資料からは、どの事業でどれくらい費用がかかるのかは見えません。金額が表示されていないと、判断できないのではないですか。

事務局

・普通建設事業費の主なものは、わかりやすくイメージするとしたら、区画整理事業や、道路建設費、河川、公園整備費などで、ただ単に金額が大きいから事業を延期してしまうのではなく、区画整理事業は、住民が生活していく上で貴重な基盤整備になりますので、お金がない中でも延期せずに、実施していくようにしています。しかし、公園等、今すぐに整備が必要でない部分については、少し我慢をしてもらい、延期とするなど、優先度や緊急度が高いものを考慮してメリハリをつけて評価しています。今までは個別の事業評価はしていましたが、それを施策の塊でみて評価しようというのは今年からの新しい手法です。

委員

・市民がこの評価をどのように判断するのか、市民の目に触れやすいようにホームページ等で公表していくといいと思います。その際は総合計画ごとにバーコード化などして、その計画に意見するのに、すぐに検索できるようなシステムがあるといいのではないかと思います。それが無理であれば市民向けの説明会をやってもらうのがいいのではないのでしょうか。

委員

・この評価のS(すでに目標達成)、A(このままの進捗であれば目標達成)、B(このままの進捗であれば目標を下回る)、C(このままの進捗であれば目標はかなり下回る)の評価基準は何が原因でこのような判断がついたのかを、検証すべきです。Sは最初の目標が低かったからなのではないのでしょうか。

事務局

・おっしゃるとおり、最初の目標設定が甘かったのかもしれないし、策定当時とは社会情勢も変わっているので、思いのほか目標達成が早かったのかもしれない。

委員

・例に挙がっている「障がい者の自立支援」の評価ですが、私は仕事上関わっているので、意見を言わせてもらおうと、「福祉的就労を利用する障がい者数」がS（目標達成）ですが、その反面、「福祉施設から一般就労に移行する障がい者数」はC（目標値下回り）となっています。前者がSなのは、後者の一般就労に移行できない障がい者が多いからであって、前者のSの判断をそのまま評価とするのはおかしいのではないかと思います。また、この事業の担当部局は「グループホームの建設が思うように進んでいない」とコメントとしていますが、実際には障がい者たちは町中のグループホームで生活することを望んではいないのが現状です。豊田市はグループホームの補助金も多く、とてもありがたいことですが、現に利用者のニーズは少ないのです。この評価については本当の市民目線の評価とは違って、実態に伴っていない評価であることが残念です。

委員

・市はある程度の方針を出して、本当にこれで大丈夫かどうかを担当部署に考えてもらい、それぞれの担当部署が市民の声を聞いて考え直すという方法でないといけないのではないのでしょうか。市の職員だけが満足した事業の進め方ではまずいということです。

事務局

・おっしゃるとおり、市の取り組んでいる方向性が市民意見とピントがずれているのであれば、それを是正していくべきです。

委員

・ハード面を我慢しているだけでは、良くないと思います。今の喫緊の課題が何であり、どれだけあるのかを考えなくてはいけないと思います。

委員

・市は事業を進めていくばかりで、その事業を行った後の結果の報告がきちんとされていないことがあります。普通は事業の評価をするのであれば、その結果がどうであったかを市民に聞き、きちんと精査してから、それを反映させて、次のステップへと進めていくべきなのではないのでしょうか。

会長

・確かに職員だけが満足した事業の進め方では困るので、市民意見を多様に反映できる機会を作ることが重要です。豊田市は今でもかなり情報は公表されていますが、この点はこれから考える必要がありそうです。それでは、引き続き、前期実践計画ローリング（事業の見直し）について事務局に説明していただきます。

事務局

・前期実践計画ローリング（事業の見直し）の手法と経過を説明。

委員

・いろいろな事業がある中でハード面の施設建設が必要というより、今は、市民の絆が薄くなってきていると思います。区や組や民生委員も仕事を抱えて大変な状態なので、本来は市民が自ら動くことが筋ではありますが、市が地域の絆を作るため

の後押しをしてくれるといいと思います。

事務局

・今は、自治区の加入率は高いが、実際に活動している人の人数を考えると、希薄化は免れない状態です。引き続き地縁組織を活発化することは重要だと思っています。財政的収入の少ない今のような状態の時は、まさにハード面ではなく、ソフト面が重要でしょう。

委員

・ソフト面でいえば、物事を実践していくにはボランティアが必要だと思うのですが、ボランティアを増やしていくために、特典制度を設けたらいいのではないかと思います。市のために頑張ったら、市の施策が優先的に利用できるなど、働きたくても働き口がないような人に頑張ってもらい、それが自分に返ってくるしくみがあるといいと思います。

会長

・それは地域通貨的な考え方ですね。他に地域がまとまって地域力を発揮している具体例はありませんか。

委員

・家の近くに公園が二つあり、一つの公園は昔からある公園で、もう一つ最近できたばかりの新しい公園なのですが、昔からある公園は地域の人々の協力でいつもきれいに整備されています。しかし、新しい方の公園はできてまだ半年くらいですが、草が生い茂ってしまっています。これはまさしく地域の活性化がうまくいっている例とそうでない例だと思います。

委員

・事業の評価で「遅れ」が約3分の1ありますが、この内容は市が独自で行っていく事業が多いのか、それとも市民活動を伴う事業が多いのか、原因はわかりますか。

事務局

・様々な要因があり、一概には言えませんが、市民側が原因ということはほとんどないと思います。

委員

・それではなぜ計画通り実践できないのですか。

事務局

・計画時より苦しい財政状況であることが主な原因です。

会長

・「犯罪のないまちづくり活動支援事業」は目標達成していますが拡大する理由、また「とよたものづくりフェスタ開催事業」を縮小する理由は何でしょうか。

事務局

・犯罪対策については、やはり、豊田市でも地域によって治安のよくない所がまだあるので、この事業は目標値に達していても、今後も積極的に取り組んでいく必要があると判断しているからです。また、「ものづくり」のようなイベントはお金のあるときは、著名なタレントを呼んだりできますが、今のような財政状況では、事

業費の抑制をすべきであると考えています。

委員

・「次世代自動車普及促進事業」について、豊田市は緊急経済対策にも取り組んでいるので、国が補助金をやめてしまっても、地場産業の推進という面からも、ぜひ継続して取り組んで欲しいです。

委員

・「遅れ」の事業がかなりありますが、この苦しい財政状況では仕方ないので、遅れている事業は遅れたままで致し方ないのではないのでしょうか。

委員

・ある会社の取組のセミナーに参加したのですが、そこでは、「地域の企業の力が重要である」と言っていました。地元企業の従業員が地域に帰って地域に貢献することが大事であり、豊田市も企業が中心になって環境保全等に自発的に取り組んでいくといいと思います。

事務局

・豊田市は比較的、地元企業との関係がうまくいっていると思います。愛知環状鉄道の複線化ができたのも、環境に配慮して自動車通勤抑制のために企業がバックアップしてくれたからです。また、バス路線整備に関しても、市が企業と連携して投資して準備し、企業に引き渡した経緯があります。今後、いかに次世代自動車を普及させるかについても、地元企業と連携して取り組んでいくべき課題だと思っています。

会長

・豊田市は、他市に比べていろいろな分野で進んでいる方だと思いますが、この施策評価についても、ぜひ今後効率的に行政に反映させていただきたいと思います。

事務局

・この施策評価については、まだ今年始めたばかりで、これから精査していく部分もあると思っています。委員の皆様にはさらに詳細な資料をお送りし、今後具体的な意見をいただきたいと思いますので、お忙しいところ恐縮ですがよろしくお願い致します。

(終 了)